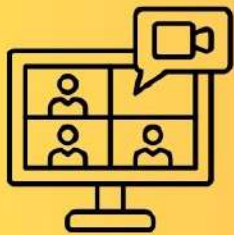


あなたの隣の「中国・樺太帰国者」 のことを知っていますか？

中国残留邦人等の体験を伝える 「戦後世代の語り部」講話会



オンライン開催
参加無料！

◆ 戦後世代の語り部とは ◆
首都圏中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託）が、中国・樺太残留邦人の体験を次世代に語り継ぐために育成した戦後世代の伝承者です

2025年12月20日（土）

14：00～16：00（zoom入室13：30～）

戦後中国や旧ソ連に残留を余儀なくされた日本人が大勢いました。そのような方たちを「中国残留邦人等」といいます。長い間彼らはどのように生きてきたのでしょうか。やっとの思いで日本へ帰国した後、どのような思いで暮らしているのでしょうか。あなたの身近にもいるかもしれない帰国者のことを、一緒に考えてみませんか。今回は中国残留邦人と樺太残留邦人の体験を両方聞くことができます！

講話 1 山崎哲

1927年山形県で生まれたIさんは3歳の時に両親と樺太に渡ります。1945年8月ソ連による樺太進攻後も機関士の仕事を続けていましたが、1946年無実の罪を着せられシベリア送りに。その後家族のもとに帰ることは許されず、今度はカザフスタンで暮らすことになり、日本に帰国できたのは70歳のときでした。

講話 2 神山英子

1945年の敗戦時、8歳だった女の子は親を亡くし兄弟姉妹もばらばらとなって中国残留孤児となりました。40年たってやっと帰国した日本は新たな苦勞の始まりでした。支援者としてこの女性に出会った語り部が、彼女とその家族の半生に寄り添いながら見聞きしてきたことをお伝えします。

定員 100名

お申込 右QRコードまたは下記問合先から 12月18日(木)締切

お問合 03-5807-3171, fax:03-5807-3174
(faxにはお名前・電話番号・メールアドレス等をお書き添えください)
(9:30-17:45 月祝休館)、kataribe@sien-center.or.jp

申込QRコードはこちら



HP



首都圏中国帰国者支援・交流センター
東京都台東区東上野1-2-13カーニープレイス新御徒町6・7F